

ふしのがわ
榎野川河口域・干潟自然再生協議会について

- ◆ 榎野川干潟は、西瀬戸内地域有数の広大な干潟（約 300ha）で、渡り鳥のクロスロード、カブトガニの生息地であり、全国的にも非常に重要な地域。

上中流域からの浮泥流入、生活排水対策の遅れによる富栄養化等によりカキの異常発生が生じるなど干潟生態系の改変・改質が生じており、平成14年6月には「やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会」が設置され、平成15年3月には「やまぐちの豊かな流域づくり構想（榎野川モデル）」が策定された。

- ◆ 平成14年度から環境省の補助を受けて、自然生態系の保全・再生のための計画策定の調査を実施。

- ◆ 平成15年3月の「やまぐちの豊かな流域づくり構想（榎野川モデル）」の策定を受け、平成16年8月に自然再生推進法に基づく「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」を設立。

平成17年3月に「榎野川河口域・干潟自然再生全体構想」が策定された。

- 第1回自然再生協議会（平成16年8月1日）
 - ・ 環境省・国土交通省・農林水産省の地元機関、地元自治体、NPO、専門家等が参画して協議会を設立。
 - ・ 構成員は、計55名・団体
- 第2回自然再生協議会（平成16年11月20日）
 - ・ 榎野川河口域・干潟自然再生全体構想（素案）の検討
- 第3回自然再生協議会（平成17年3月6日）
 - ・ 榎野川河口域・干潟自然再生全体構想（案修正版）の検討
- 榎野川河口域・干潟自然再生全体構想 策定（平成17年3月末）

榎野川河口域・干潟自然再生全体構想の概要

1. 自然再生の基本的な考え方と方向性

- ① 自然再生の3つの視点(流域構想等を踏まえ)
 - ・ 榎野川河口干潟等の生物多様性の確保
 - ・ 多様な主体の参画と産学官民の協働・連携
 - ・ 科学的知見に基づく順応的取組
- ② 人が適度な働きかけを継続することで、自然からのあらゆる恵みを持続的に享受できる場、いわゆる『里海』の再生を目指す
- ③ 再生の方法
 - ・ 「やれることからやっていく」
 - ・ 悪化した原因やメカニズムを科学的に探求しながら、順応的に再生

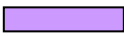
2. 自然再生の対象となる区域

- (1) 区域 → 河口域から山口湾内
- (2) 榎野川河口干潟等の現況及び変遷
- (3) 現況評価

3. 自然再生の目標

- (1) 目指す姿
いわゆる『里海』の再生を目指す
- (2) 具体的な目標

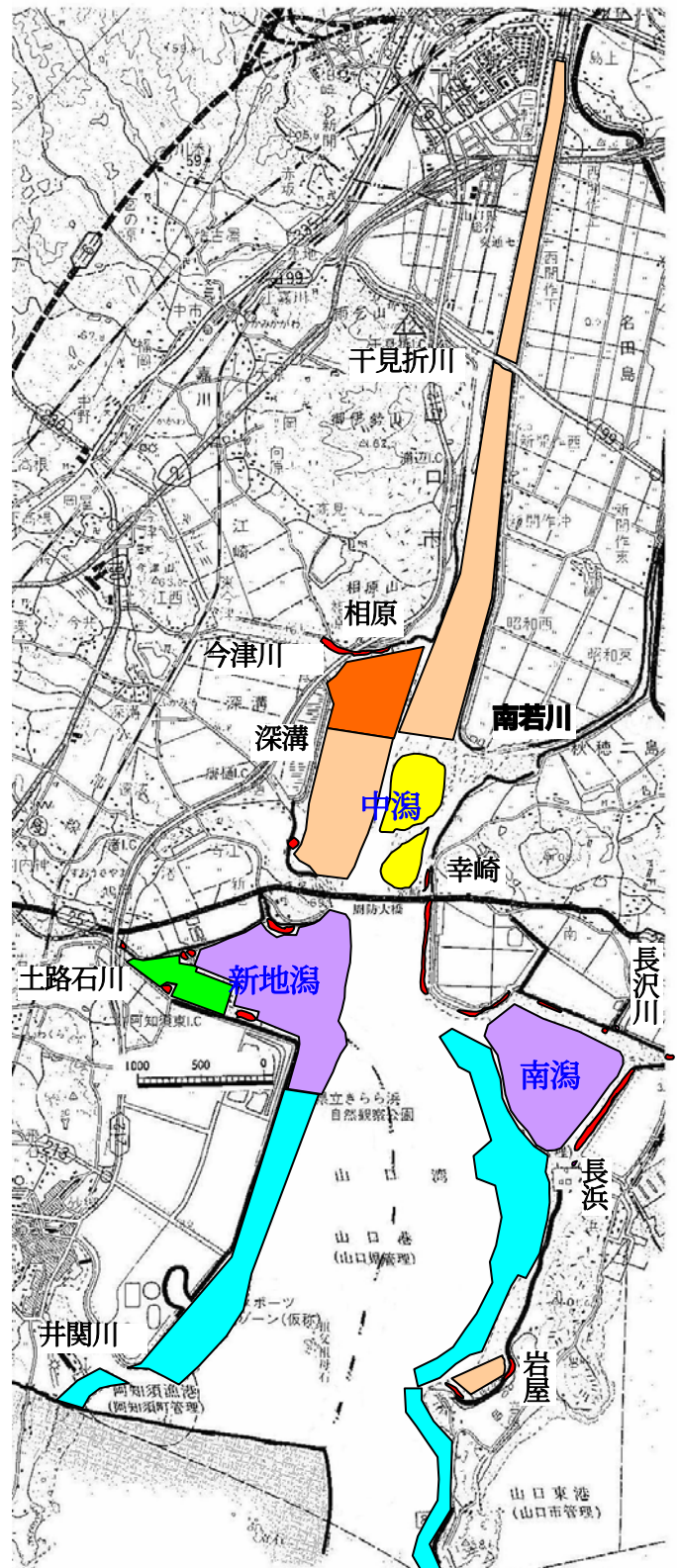
<自然再生ゾーニング>

- | | |
|---|-----------------|
|  | : 豊かな泥干潟の区域 |
|  | : 豊かな砂干潟の区域 |
|  | : カブトガニ産卵場保全区域 |
|  | : 豊かなアマモ場・浅場 |
|  | : 豊かな泥浜・レク干潟 |
|  | : 豊かな後浜(背後地)の区域 |
|  | : 現状干潟の観察・維持区域 |

- (3) 目標を達成するための取組
- (4) 取組の進め方

4. 自然再生協議会の役割分担及び構成

- (1) 協議会委員、地域住民等の役割
- (2) 役割分担表
- (3) 自然再生協議会の構成



ここに示すゾーニングはイメージであって、具体的な検討はそれぞれの事業主体において、行われるものである。

自然再生ゾーニング

榎野川干潟自然再生



力キの発生状況



干潟の上下置換試験



干潟の人手による耕耘試験